

令和4年度
教育委員会の事務に関する点検・評価について

大田市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、令和4年度における教育委員会の事務に関する点検及び評価の結果について報告します。

令和5年12月1日

大田市教育委員会

目次

I	はじめに	1
	1. 点検・評価の趣旨	1
	2. 点検・評価の構成	1
	3. 施策体系図	2
II	令和4年度における事務の管理及び執行状況	3
	1. 教育委員会の概要	3
	2. 教育委員会委員の活動状況について	4
	3. 「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価	6
III	外部評価者（学識経験者）の意見	38

I はじめに

1 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条規程に基づき、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされています。

大田市教育委員会では、大田市教育の基本理念や施策の方向性を示した「大田市教育ビジョン」の取組について、学識経験者の意見を得て、「教育委員会の事務に関する点検・評価」を実施し、本報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地方教育行政法）（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

（1）項目

点検・評価の対象項目を「大田市教育ビジョン」の施策とし、施策ごとに点検・評価をします。

（2）取組の基本方針

「大田市教育ビジョン」の【基本方針】を転載しています。なお、【基本方針】に掲げた事項を「実現」することが成果目標となります。

（3）令和4年度の取組の概要

令和4年度中に実施した主な取組の実施状況、成果等を記載します。

（4）評価、今後の対応

取組の概要や進捗状況を踏まえ、施策の評価、今後の対応を記載します。

（5）外部評価

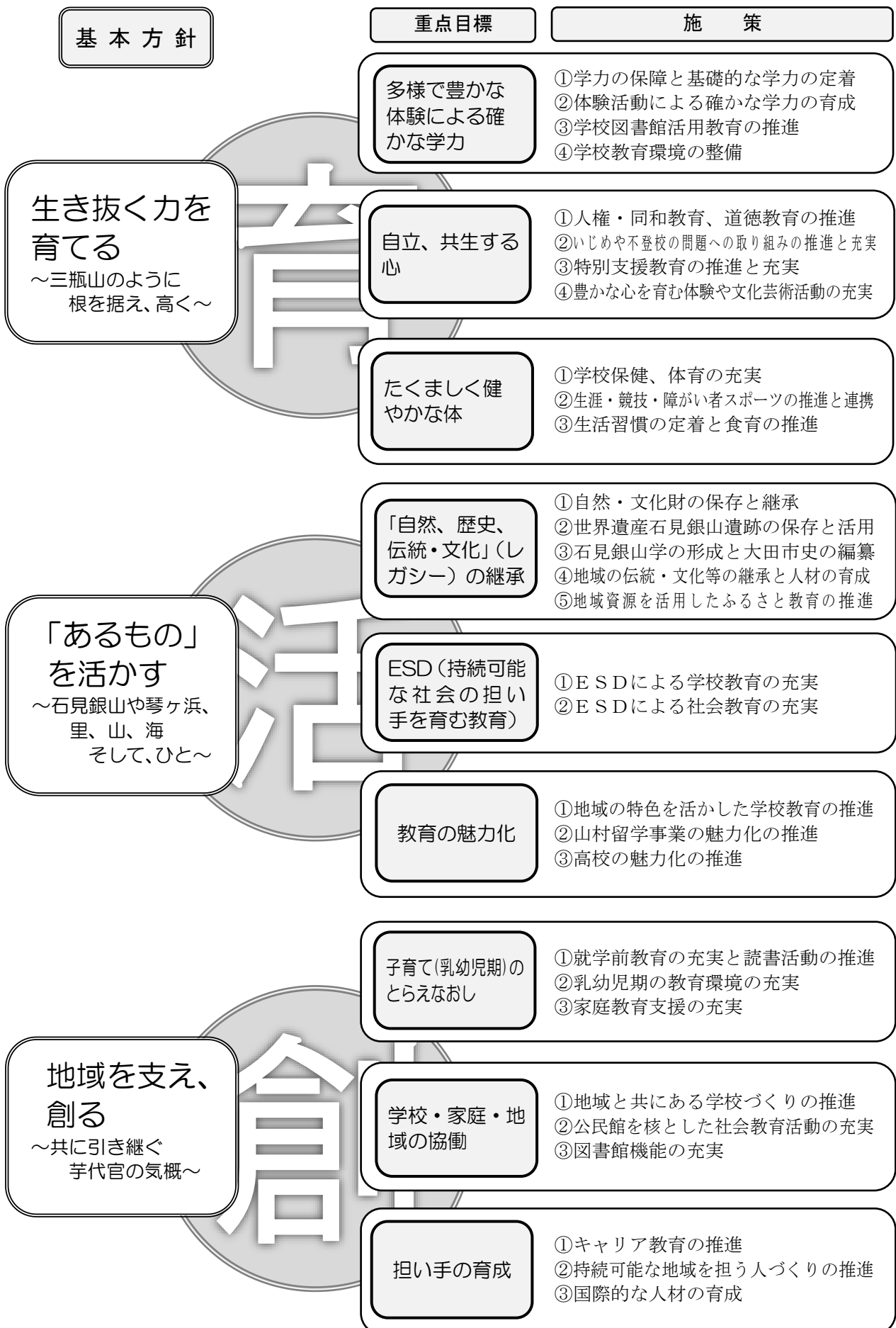
事務局における自己点検・評価を行い、この評価について、外部評価者による現地視察や事務局からの説明を基に評価・意見をいただきます。

（6）その他

この報告書のほか、別途、議会に提出した「主要施策の成果」のうち、該当部分についても、点検・評価の結果に関する報告書と見なすものとします。

3 施策体系図

大田市教育ビジョン基本計画施策体系



Ⅱ 令和4年度における事務の管理及び執行状況

1. 教育委員会の概要

(1) 教育委員会の目的

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図るため、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現する。

(2) 教育委員会制度の仕組み

- ・ 教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置。
- ・ 首長から独立した行政委員会としての位置付け。
- ・ 教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行。
- ・ 教育長及び教育委員は、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命。任期は教育長3年、委員4年、再任可。

(3) 教育委員会の定数

教育長及び委員5人

(4) 教育長及び委員名簿（令和5年3月31日現在）

職 名	氏 名
教育長	武田 祐子
委 員（教育長職務代理者）	梶 伸光
委 員	竹下 ちとせ
委 員	仲野 義文
委 員	福間 信隆
委 員	岩谷 律子

2. 教育委員会委員の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

① 教育委員会会議の開催回数

大田市教育委員会定例会規則により、定例会を12回開催（毎月1回）した。

② 教育委員会会議の審議項目

- 1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針、教育関係職員の研修の一般方針及びその他教育行政の運営に関する基本的な方針の決定に関すること。
→ 事例なし
- 2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
→ 法改正、条例改正等に伴う規則13件の改正を行った。
- 3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
→ 池田小学校の廃止を行った。
- 4) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
→ 川合小学校と池田小学校との統合により当該校の学校区域を変更した。
- 5) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
→ 令和4年4月の人事異動に際し、市内小・中学校教員の内申を行った。
- 6) 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に関すること。
→ 令和3年度分の教育委員会の事務について、自己点検・評価及び外部評価を実施し、その結果を大田市議会へ提出した。
- 7) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関すること。
→ 補正予算、新年度予算の原案の決定を行った。
- 8) 附属機関の委員の任命及び委嘱に関すること。
→ 大田市図書館協議会委員、大田市社会教育委員、大田市スポーツ推進審議会委員、社会教育コーディネーター、大田市文化財保護審議会委員の任命及び委嘱について、教育長提案のとおり承認した。

(2) 総合教育会議の開催状況

- ① 日 時 令和5年1月12日(木)
- ② 場 所 大田市役所4階大講堂
- ③ 協議事項 「学校再編の考え方」の見直しについて

(3) 会議の公開、情報発信

① 教育委員会

会議は原則公開とし、開催日を市のホームページに掲載するとともに会議録をホームページにて公開した。

② 総合教育会議

会議は原則公開とし、開催日を市のホームページに掲載するとともに音声告知放送にて周知した。また、庁内各部、学校長、公民館長、まちづくりセンター長へ案内した。(傍聴者35名)

(4) 教育委員会と事務局との連携

教育委員会委員に事前に資料を提供し、各委員が十分に内容把握のうえ、委員会での審議を行った。また、協議会の場を利用し、事務局職員との意見交換などを行った。

(5) 教育現場の視察及び各種会議への出席

多くの事業は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止となったが、「学校のあり方に関する実施計画」の見直しについての地域説明会に出席した(傍聴)

教育委員会 教育部の業務 (教育委員会事務局組織規程 抜粋)

所属名	係名	業務
総務課	総務施設係	(1) 校舎その他の教育財産の営繕保全に関すること。 (2) 学校施設の利用及び確保並びに防火に関すること。
	学校再編係	(1) 教育委員会の会議、儀式に関すること。 (2) 教育委員会規則の制定又は改廃に関すること。 (3) 公印の管守に関すること。 (4) 教育委員会職員の任免、研修、福祉厚生に関すること。 (5) 所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。 (6) 学校の設置、廃止及び学校再編、通学区域に関すること。 (7) 他課の主管に属さないこと。
学校教育課	指導研修係	(1) 校長、教頭の研修に関すること。 (2) 学校運営に関すること。 (3) 教育課程に関すること。 (4) 学習指導、児童生徒指導、児童生徒理解、特別支援教育に関すること。 (5) 学校図書館活用教育、学校人権・同和教育の推進に関すること。 (6) 教育研修センターに関すること。
学事・魅力 化推進室	学事・魅力 化推進係	(1) 教育の魅力化に関すること。 (2) 就学、転退学、学齢簿に関すること。 (3) 学級編成に関すること。 (4) 教科書の無償給与に関すること。 (5) 教職員、児童生徒、幼児の保健衛生、安全、福利厚生に関すること。 (6) 公立幼稚園に関すること。 (7) 小・中学校の教育推進に関すること。
社会教育課	社会教育・ スポーツ係	(1) 社会教育機関の設置、管理、運営、廃止に関すること。 (2) 社会教育機関の人事に関すること。 (3) 社会教育の企画及び調整に関すること。 (4) 社会教育、生涯学習情報の提供、相談に関すること。 (5) 社会人権・同和教育の推進に関すること。 (6) 多目的集会施設に関すること。 (7) スポーツ推進の企画及び調整に関すること。 (8) スポーツ関係団体との連絡調整及び指導育成に関すること。 (9) スポーツ推進審議会に関すること。 (10) スポーツ推進委員の活動に関すること。 (11) 社会体育施設に関すること。
	図書館係	(1) 図書館の管理運営に関すること。 (2) 学校図書館及び保育園、幼稚園の読書活動支援に関すること。 (3) 視聴覚教育に関すること。

所属名	係名	業務
石見銀山課	世界遺産係	(1) 世界遺産に関すること。 (2) 日本遺産に関すること。 (3) 県・市・民間連携に関すること。 (4) 施設管理に関すること。
	調査整備係	(1) 石見銀山遺跡の保存管理及び調査整備に関すること。 (2) 石見銀山学に関すること。 (3) 世界遺産センターに関すること。
	建造物係	(1) 伝統的建造物群保存地区に関すること。 (2) 史跡地内の建造物に関すること。 (3) 文化財建造物の保存管理に関すること。
	文化係	(1) 芸術文化の振興に関すること。 (2) 文化財の調査に関すること。 (3) 文化財の指定、管理及び活用に関すること。 (4) 文化団体との連絡及び指導、育成に関すること。 (5) 埋蔵文化財調査に関すること。 (6) 文化財の管理・収蔵等に関すること。
学校給食センター		(1) 給食の計画及び実施に関すること。 (2) 給食の輸送に関すること。 (3) 学校給食センターの管理及び運営に関すること。
山村留学センター	山村留学係	(1) 山村留学センターの管理に関すること。 (2) 山村留学センターの運営に関すること。

令和4年度の主要事業等(新規事業抜粋)

※新規事業は事業名に◎、事業内に新規内容がある場合は○

事業名		事業の概要	所管課
◎	帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業	今後増加が見込まれる帰国・外国人児童生徒の受入促進のため、日本語指導支援員(1名)を配置し、日本語と教科の指導、生活指導等も含めた総合的・多面的な支援を行う。	学校教育課
◎	情報教育推進事業	国のGIGAスクール構想に基づき、小中学校における情報教育を推進するため、教職員へのサポート体制を整備するとともに、タブレット端末や電子黒板、通信回線等のICT環境の管理を行う。	教育部総務課
◎	小学校耐震補強・改修事業	新耐震基準以前に建築され、老朽化が進む大森小学校の耐震補強計画及び大規模改修計画を策定する。	教育部総務課
◎	川合・池田小学校統合事業	令和4年度末をもって池田小学校を川合小学校に統合するための学校統合準備協議会に交付金を交付する。	教育部総務課
◎	学校給食センター設備更新事業	安全・安心な学校給食を提供するため、経年により老朽化した施設・設備の計画的な改修・更新を実施する。	学校給食センター
○	石見銀山協働推進事業	石見銀山協働会議との協働により、「石見銀山行動計画」の進行管理を行うとともに、協働会議の活動支援、世界遺産登録15周年記念事業等を実施する。	石見銀山課
◎	石見銀山遺跡拠点施設等改修事業	展示物の盗難対策を強化し、希少度の高い企画展等の招致を図るため、世界遺産センターの防犯カメラシステムを改修する。	石見銀山課
○	石見銀山遺跡落石対策等事業 (事業名変更)	地域住民及び来訪者の安全確保と史跡の保護を目的として、石見銀山遺跡地内の落石対策工事、銀山川の護岸復旧工事を行う。	石見銀山課

令和4年度 教育部の主な取り組みの概要

課名	主な取り組み
総務課	<p>○学校施設の故障が頻発する状況から市内全小中学校の建物調査を実施。調査の結果、塩害等により躯体自体に重大な損傷があり、近年中の対応が必要な学校が複数校発見された。児童・生徒数の急減及びこの結果を受け、「学校再編の考え方」の見直しに着手することとなった。「学校再編の考え方」の見直しに合わせて改築も含めて検討することとなった。</p> <p>○令和5年度から耐震補強・大規模改修工事を予定していた大森小学校については、一旦立ち止まることとし、「学校再編の考え方」の見直しにあわせて、対応方法を検討することとした。</p> <p>○池田小学校を令和4年度をもって閉校とし、令和5年度より川合小学校へ統合することとなった。統合にあたって、統合準備協議会の運営、備品等の移動、閉校記念事業、交流学习、閉校施設の安全対策等を行い、統合を円滑に進めることができた。</p> <p>○令和5年1月12日、五十猛小学校敷地内で進入した自動車に児童がはねられる交通事故が発生した。事故後、市内全小中学校の緊急点検を実施。スクールガードリーダーによる交通安全指導の徹底及び安全対策が必要な学校に関しては注意喚起看板、路面表示を設置し、再発防止に努めた。</p>
学校教育課	<p>○教員不足による正規の教員の未配置が生じる中、未配置の学校及び常勤に代えて非常勤講師を配置している学校に対して、教職員の校務負担を軽減するために、緊急校務支援員を配置した。7校9名が配置され、児童生徒の学習補助や教職員の授業準備の補助など校務負担の軽減が図られた。</p> <p>○外国にルーツのある児童生徒の受け入れにあたり、教科指導支援、生活支援等を含めた総合的、多面的な指導支援を行った。該当校に日本語指導支援員を1名配置し、児童が安心して学校生活を送ることができた。</p> <p>○大田市の児童・生徒に「確かな学力」と「学ぶ意欲」を育むために、3か年計画で「大田市学力育成プロジェクト事業」を立ち上げた。県立大学の齋藤一弥先生の指導のもと、通覧指導、授業づくり講座、教育後援会等を実施した。また事業のひとつとして、本物にふれる豊かな体験事業を行い、延べ800名の児童・生徒が体験をした。教員は授業改善の意識を高め、児童・生徒は、学ぶ意欲を高めた始めている。</p>
学事・魅力化推進室	<p>○GIGAスクール構想による教育の実践・拡充のためのICT機器整備では、これまでに児童生徒への一人一台端末の整備を行ってきたが、それに加え、教員用端末の追加や全小・中学校の通常学級すべてに電子黒板を導入した。この電子黒板を導入することにより、ICT機器を活用した授業をさらに充実化し、児童生徒の関心や意欲を高める工夫を凝らした授業を行うことができた。また、故障対応等のサポート体制を整備することにより、ICT機器等の不具合による教育活動への影響を最小限に抑えることができた。</p> <p>○未来志向の教育の推進の取組として、令和4年度から新たに「おおだ教育魅力化推進会議（愛称：おおだ未来☆夢ランド）」を開催した。会では様々な分野で活躍されている委員からアイデアや提案のほか、財源・人材確保についての課題もあげられた。いただいた意見等をもとに、できることから少しずつ具体化していくよう取組を推進していかなければならない。</p>

<p>社会教育課</p>	<p>○令和4年度に社会教育推進センターを設置し、市内7ブロックに社会教育コーディネーターを配置した。各まちづくりセンターが実施していくこととなった社会教育事業への支援やまちづくりセンター職員への研修会を実施し、社会教育推進のための意識啓発・技術力向上を図った。</p> <p>○地域学校協働活動の継続的な取り組みを推進するため、各小中学校区に専任コーディネーターを配置し、社会教育コーディネーターが統括的な役割を担うことで地域と学校が連携・協働する体制が構築されている。</p> <p>○学校法人日本体育大学と連携協定を締結し、それぞれの有する教育資源を有効活用することでより一層のスポーツ振興を図る。</p> <p>○コロナ禍を考慮し三瓶高原クロスカントリー大会は引き続きオンライン大会での開催とし延べ100名の参加があった。また、10月には市内各地で12種目のスポーツ行事・大会が開催され延863名の参加があった。</p> <p>○例年通り市内小中学校でスポーツテストを実施。持久力と握力が国県レベルと比較して弱い傾向にある。</p> <p>○図書館においては、中央・仁摩両図書館で感染対策を行いながら定例行事（おはなし会・企画展・テーマ展）や読書週間に合わせた図書館まつりなどを開催。温泉津図書館は開館日時等を変更するなど工夫により開館継続してきた。また、定期的な書籍購入により蔵書数は中央・仁摩・温泉津の3館合計で24万冊余りとなった。</p>
<p>石見銀山課</p>	<p>○世界遺産登録15周年にあたり、7月には記念イベント、9月には記念フォーラム、記念講演会を開催した。また、NHKの放送番組「ブラタモリ」などで取り上げられ、全国に石見銀山遺跡の価値と魅力が紹介された。このほか、千早茜さんの「しろがねの葉」が第168回直木賞を受賞したことにより、千早さんを招いてのトークイベントを企画した。</p> <p>○「特定地域づくり協同組合支援事業」において令和3年11月から大森地区に地域おこし協力隊を配置し、文化財等を活用したまちづくりのサポートを行った。こうした取り組みの成果として、特定地域づくり協同組合と石見銀山みらいコンソーシアムが立ち上がった。</p> <p>○平成31年4月の文化財保護法の改正により、令和2年から作業を開始した「大田市文化財保存活用地域計画」の策定が完了し、昨年12月には文化庁の認定を受けた。</p> <p>○樹勢回復が見込めなくなった市指定文化財の「定め松」について、文化財や樹木の専門家、地域の代表で構成する「定め松保存活用検討委員会」を開催し、今後のあり方について検討を行った。</p>
<p>給食センター</p>	<p>○学校給食センターを設置してから10年が経過し、施設の修繕等の経費が増加傾向にあるため、設備の更新・修繕を計画的に行うことを目的に、令和4年度から学校給食センター設備更新事業を開始した。初年度は、調理場内の炊飯設備、食器洗浄設備、ボイラー設備の修繕を行い、調理場外では排水処理設備、LPガス設備の修繕を実施。また、耐用年数を超えていた消火器設備の更新を行った。</p> <p>○邇摩高校との連携事業として、邇摩高校生が製造したマーマレードジャムを使って「鶏肉のマーマレード焼き」を学校給食で提供した。また、邇摩高校生が考えた「サバカレーチャーハン」を学校給食の献立に取り入れて、地産地消と食育の推進に取り組むことができた。</p>

山村留学センター	<ul style="list-style-type: none"> ○長期山村留学生の募集活動、留学生の各種活動の補助や地元関係者（受入農家）との連絡調整などを行った。 ○短期山村留学生の募集、参加者の活動支援、関係団体や関係機関との連絡調整を行った。 ○センターの諸活動をSNS（フェイスブック・ホームページ等）で積極的な情報提供を行った。 ○センター施設の運営及び施設の維持管理等を行った。
人権推進課	<ul style="list-style-type: none"> ○市民一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指し、様々な人権課題について考える機会とするため、人権を考える市民のつどいを開催した。（全5回、参加者：延べ796人） ○市内全小学校16校で、人権の花運動を実施した。子どもたちが協力して花を育てることにより、生命の尊さを実感し、優しさと思いやりの心を体得することにつながった。 ○人権作文、ポスター、標語コンテストを市内小中学校、高校、分教室25校で実施し、人権尊重の意識を高めることができた。県及び法務局で同様の事業を行っていることから、教職員の事務負担軽減のため令和5年度より事業を廃止する。

3. 「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価

「大田市教育ビジョン」基本計画（後期計画）（令和3年度～令和7年度）における取り組みに係る令和4年度の主要事業の実施状況について、以下の基準により自己評価等を行いました。

（1）評価等の基準及び自己評価結果

① 事業の評価（年度当初計画に対する達成度）

区分	評価の基準	達成度の目安	評価事業数
A	予定していた取り組みが実施できた。	80%～100%	3 3
B	予定していた取り組みがおおむね実施できた。	60%～80%未満	2 2
C	予定していた取り組みがあまり実施できなかった。	30%～60%未満	2
D	予定していた取り組みがほとんど実施できなかった。	0%～30%未満	0
合 計			5 7

② 今後の取り組み

区分	取り組み内容	評価事業数
拡大	事業規模を拡充して推進	3
継続	同様の取組を推進	4 5
改善	事業の内容を見直して推進	8
縮小	事業の規模を縮小して推進	1
終了	事業を終了	0
合 計		5 7

（2）「大田市教育ビジョン」基本計画における項目ごとの“成果指標”及び“主要事業の評価及び今後の課題”（次ページより）

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

基本方針1 『生き抜く力を育てる』

重点目標1 多様で豊かな体験による確かな学力

①学力の保障と基礎的な学力の定着

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
全国学力・学習状況調査における国語平均正答率(小学校)	62.0%	—	62.0%	61.0%	-1.0%	全国以上	65.6%	
全国学力・学習状況調査における算数平均正答率(小学校)	65.0%	—	65.0%	57.0%	-8.0%	全国以上	63.2%	
全国学力・学習状況調査における国語平均正答率(中学校)	73.0%	—	61.0%	66.0%	5.0%	全国以上	69.0%	
全国学力・学習状況調査における数学平均正答率(中学校)	51.0%	—	49.0%	43.0%	-6.0%	全国以上	51.4%	
学校が楽しいと感じている児童の割合	81.6%	77.6%	80.0%	76.2%	-3.8%	90%以上	85.4%	
学校が楽しいと感じている生徒の割合	82.2%	79.5%	84.7%	82.4%	-2.3%	90%以上	82.9%	
家庭で1時間以上勉強している児童の割合	56.2%	66.9%	64.0%	47.1%	-16.9%	70%以上	59.4%	
家庭で1時間以上勉強している生徒の割合	54.3%	61.5%	54.7%	50.2%	-4.5%	70%以上	69.5%	
家庭で2時間以上勉強している生徒の割合	14.4%	11.5%	14.9%	14.4%	-0.5%	30%以上	35.2%	
家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った小学校の割合(国語・算数)	93.8%	—	93.4%	93.8%	0.4%	全国以上	89.7%	
家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った中学校の割合(国語・数学)	100.0%	—	100.0%	100.0%	0.0%	全国以上	86.9%	

※【評価欄】年度当初計画に対する達成度

A:100%～80%、B:60%～80%未満、C:30%～60%未満、D:0%～30%

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R4年度実績）	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
<p>学力・教育力向上プロジェクト事業</p>	<p>○令和4年度～6年度の3ヵ年計画で、「しまねの学力育成プロジェクト事業」を受け、大田市の児童・生徒に「確かな学力」と「学ぶ意欲」を育むために「大田市学力育成プラン」に取り組む。</p> <p>①教職員の授業の質の向上 ②本物（専門家）に触れる豊かな体験 ③子ども読書活動・学校図書館活用教育の充実 ④学力向上支援員の配置 ⑤学級集団づくり（アンケートQ-U） ⑥複式教育推進指定校事業（複式教育の充実・教員の指導力向上） ⑦中学生の学習に向かう力の醸成</p>	<p>【取組状況】</p> <p>①学校訪問通覧指導（市内全小中学校22校実施） 授業づくり講座（教材研究会、授業研究会12回） おおだ教育講演会、学力育成協議会4回実施</p> <p>②本物（専門家）に触れる豊かな体験事業 （小学校11校、中学校2校で実施 延べ800名参加）</p> <p>③調べ学習用図書購入等（479千円）</p> <p>④単式、複式学級を繰り返す学級に学力向上支援員配置（2校・3名）</p> <p>⑤アンケートQ-Uの実施（各校2回実施）</p> <p>⑥複式教育推進校事業（高山小教材研究会2回、授業研究会1回実施）</p> <p>⑦中学1、2年生対象「放課後学びの場」開設（5校36回延べ350名参加） 中学3年生対象「土曜チャレンジ」の開設（4校47回延べ340名参加）</p>	<p>A</p>	<p>継続</p>	<p>教員の授業改善への意識の高まりが感じられる。教員の主体的な学びの場を広げ、日々の授業の質の向上につながるよう取組を継続していく。</p> <p>本物に触れる活動は、児童生徒の学ぶ意欲（理系教科）を高めている。今後は、驚き・感動・発見のある体験と授業を結びつけた探究的な単元構想へと発展させていく。</p> <p>③④⑤の取組は、児童・生徒の学習に向かう意欲の向上やきめ細やかな指導支援において効果がみられる。</p> <p>生徒の主体的な学びの場として⑦の取組を行ったが、「参加希望者の減少」「講師不足」「主体的な学びの場になりにくい状況」等の課題があり、次年度は実施しない。</p> <p>・⑧は、生徒の主体的な学びの場として場の設定を行ったが、「参加希望者が少ない」「学びを支える講師の確保が難しい」「参加者が集中して学習に取り組めない状況がみられる」等の課題があり、次年度は実施しない。</p> <p>※令和4年度～6年度の3ヵ年計画で、「しまねの学力育成プロジェクト事業」を受け、「大田市学力育成プラン」に取り組む。</p> <p>「授業改善（能力ベースの授業づくり）」「本物（専門家）に触れる豊かな体験活動」「家庭学習の充実」を柱に取組をさらに推進し、児童生徒の「確かな学力」と「学び続ける意欲」を育む。</p> <p>大田市の児童・生徒の学力育成に向けて、「大田市学力育成プラン」に取り組んだ。授業改善の取組では、校長会と連携し、「通覧指導」や「令和4年度全国学力・学習状況調査、島根県学力調査では、国語、算数・数学、理科、英語のすべての教科で国・県平均を下回り、特に算数・数学、英語はその差は大きい。また、算数・数学については、学年があがるにつれて、国・県との差が開いていく傾向にある。この実態を重く捉えつつ、今までの取組を継続しつつ、大田市の学力育成について新たな視点で考え、市校長会等とも連携した全市をあげた取組を行っていく。</p>	<p>学校教育課</p>

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R4年度実績）	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
教育情報化推進事業、情報教育推進事業	Society5.0の時代に活躍できる児童生徒を育てるため、学校のICT環境の整備を行う。【GIGAスクール構想】	校内通信ネットワーク整備 以下整備内容 ・学校L3スイッチの更新 ・市内3校の小学校と2校の中学校の学習系ネットワークを直接インターネットにアクセスするローカルブレイクアウトを実施。 ICT機器整備 以下整備内容 ・電子黒板整備 ・情報機器ラック ・スクールサポーター ・GIGA端末の活用支援、ヘルプデスク等	A	継続	GIGA端末の更新 ICT機器の活用の幅を広げる 各学校の回線の強化、適切な電波速度整備 突発的なネットワーク環境が停止しないようにする予防策	学事・魅力化推進室
学校ネットワーク更新事業、学校ネットワーク管理費	継続的に安定した校務及び教育環境を維持するために、計画的な維持管理・整備を行う。	学校ネットワークの保守契約を結んだ。以下保守内容 ・運用状況管理 ・セキュリティ管理 ・ウイルスチェック管理 ・故障時復旧作業 ・ヘルプデスク	A	継続	ネットワークの強靱化対応 統合型校務支援システムの導入 学校ネットワークの保守性の強化 セキュリティポリシーの策定 将来的な学校数を踏まえた機器の整備	学事・魅力化推進室
就学援助事業	経済的理由により就学が困難な家庭に対し費用を給付	学用品費等、修学旅行費、給食費、PTA会費等支給 就学援助認定数 小学校：要保護6人 準要保護383人 中学校：要保護2人、準要保護202人	A	継続	きめ細かな周知及び関係機関との連携 経済的に困窮している世帯の把握と公平性の確保	学事・魅力化推進室
通学バス運行管理費	学校統合等により通学が困難となった地域へのスクールバス運行を実施	学校統合等により通学が困難となった地域へのスクールバス運行を実施 (小学校：6校、中学校：4校)	A	継続	老朽化した車両の更新、継続した路線運行手段の確保	総務課
通学費補助	小学校、中学校に通学する遠距離通学者に対して公共交通機関利用者等にかかる経費を援助する	バス通学：公共交通機関に係る費用全額 自転車通学：500円/月（11か月） 【小学校】バス通学者8人 【中学校】バス通学者9人、自転車通学者28人	A	継続	通学費補助制度の周知	学事・魅力化推進室

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②体験活動による確かな学力の育成

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備考
計画期間中に長期宿泊体験活動をおこなった小学校数	16校	0校	3校	1校	△2校	16校		全校
県立自然館や三瓶小豆原埋没林公園で体験学習をおこなった学校数	13校	13校	14校	15校	1校	16校以上		小学校は全校
地域行事に参加している児童の割合	81.7%	67.8%	76.8%	70.1%	-6.7%	80%以上	52.7%	
地域行事に参加している生徒の割合	58.1%	60.9%	60.2%	49.8%	-10.4%	70%以上	40.0%	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
おおだ教育魅力化推進事業、学校業務改善事業	小中学校や市内県立高校において地域色を活かした教育を進めるとともに、地域のひと・もの・ことを活かした体験活動により、ふるさとへの愛着を高め、次世代の担い手を育てるふるさと教育を推進する。	<p>【取組状況】</p> <p>小中学校や市内県立高校での特色ある教育を推進するため、大田市の教育魅力化を図り、地域のひと・もの・ことを活かした体験活動により、ふるさとへの愛着を高め、次世代の担い手を育てるふるさと教育を推進するため、次の事業を実施。また、教職員の業務改善軽減のための人的措置(スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員・地域指導者)を行うことで、教職員の業務時間の短縮を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと教育推進事業【全小中学校22校】 <ul style="list-style-type: none"> 【協力支援講師延べ584名】 小学校新一年生児童へのキャリア・パスポートの配付 社会科見学等交通費補助【市内16小学校】 職場体験代替事業(大田市中学校キャリア教育推進事業)の実施【職業講話、職場訪問等・市内5中学校 対象2,3年】 小中学校ホームページ管理費 学校運営協議会運営交付金(コミュニティ・スクール推進事業)【20協議会】 <p>・おおだ教育の日フェスタの開催【ぎんざんテレビやYouTubeを活用した情報発信、講演会、展示コーナー(石見銀山課・学校給食センター・子ども保育課・学校教育課)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと夢未来講演会の開催 おおだ教育魅力化推進会議の開催【年2回】 大田市中学校拡大生徒会の開催【市内中学校生徒会とのオンライン開催】 中学校部活動地域指導者活用支援事業【4校14部17名配置】 スクール・サポート・スタッフ配置事業【2校・2名配置】 スクール・サポート・スタッフ追加配置【市内12校】 	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> 各小中学校で、大田市ならではの自然・歴史・行事等に理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育みながらそれぞれの地域特性をいかしたふるさと教育を行った。2月の「おおだ教育月間」では、小・中学校や関係機関の特色ある取組をぎんざんテレビや大田市公式YouTubeでにおいて配信、ふるさと教育広報誌を作成し全戸配布を行うなど、多くの市民にふるさと教育に関わる魅力的な取組を配信できた。 未来志向の教育の推進の取組として、「ふるさと夢未来講演会」や「おおだ教育魅力化推進会議(愛称:おおだ未来☆夢ランド)」を開催した。講演会では、講師自身の夢に触れたことで、熱中できるものを発見するためには多くの経験をすること、目標を立てたらその実現に向けて考えると良い機会となった。今後も継続して実施していくこととしている。また、夢ランドにおいて、様々な分野で活躍されている委員から意見や提言をいただくことは、大田市の教育をこれまで以上に魅力的な取組にしていくために必要である。会では様々なアイデアや提案のほか、財源・人材確保についての課題もあげられた。いただいた意見等をもとに、できることから少しずつ具体化していくよう取組を推進していかなければならない。 コロナ対策としてスクール・サポート・スタッフを配置したことにより、感染拡大予防のために増えた消毒作業等、教職員の業務負担軽減となった。しかし、教職員1人当たりの時間外勤務時間の月平均をみると、中学校は前年度と比較し減少しているが小学校では令和2年度から微増しており、教職員の業務負担は依然として大きな課題である。今後、消毒等の感染対策等の業務は減っていくと思われるため、より教職員の業務サポートができる体制を強化していく必要がある。 	学事・魅力化推進室、学校教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③学校図書館活用教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
図書館活用授業年間時間数(小学校1クラス当たり)	49.6h	59.8h	51.3h	52.9h	1.6h	増加		
図書館活用授業年間時間数(中学校1クラス当たり)	19.2h	23.1h	26.1h	28.7h	2.6h	増加		
一人当たりの学校図書年間貸出冊数(小学校)	108.7冊	108.9冊	108.2冊	116.1冊	7.9冊	120冊以上		
一人当たりの学校図書年間貸出冊数(中学校)	27.0冊	27.1冊	20.4冊	17.1冊	△3.3冊	45冊以上		
学校図書館蔵書充足率(小学校)	78.8%	74.8%	81.1%	81.9%	0.8%	85%		
学校図書館蔵書充足率(中学校)	81.9%	82.2%	88.7%	86.5%	△2.2%	85%		
学校図書館のエアコン整備率	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	-	90%	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
「読み調べ学ぶ力漲る学校図書館」事業	読書活動の推進及び学校図書館の効果的な活用・運営を図るため、学校司書等を配置し、児童生徒の読書活動を推進し、豊かな人間性や思考力・判断力・表現力等基礎的学力、情報活用能力を育む活動により、学校図書館機能の充実を図る。	読書活動の推進、学校図書館の効果的な活用を図るため司書の配置や、図書充実のために図書購入を行った。 ・小学校16校、中学校6校配置(内、兼務7名) ・学校貸出用図書の購入 294冊 ・学校図書館への新聞配置 小学生新聞12校、一般紙10校 ・年間平均貸出冊数 小学校116.1冊、中学校17.1冊 ・コロナ禍にあっても学校司書の研修の充実を図り、その専門性の向上と取組を支援した。(県主催研修、市教委主催研修 連絡会 ※資料交換のみを含む) ・学校司書が授業を支援し、学校図書館を活用した授業の実施、子どもたちの情報活用能力の向上を図った。(学校図書館活用授業1学級あたりの平均時間小学校52.9、中学校28.7)	A	継続	蔵書数の基準達成を目指し、蔵書の適切な保管、選別、入替が必要である。また、ほぼ横ばいである貸出冊数の増加のため新たな手立てが必要と考える。	学事・魅力化推進室、学校教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

④学校教育環境の整備

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
大田市交通安全プログラムによる通学路安全対策実施率	51.0%	49.0%	60.0%	69.0%	9.0	80%以上		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】小中高魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
【再掲】教育情報化推進事業、情報教育推進事業	—	—	A	拡大	—	学事・魅力化推進室
【再掲】学校ネットワーク更新事業、学校ネットワーク管理費	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
小学校耐震補強・改修事業、校舎等施設改修事業	安全・安心な学習環境を整備する。	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物、設備の経年劣化により年々故障件数が増加しており、今後、建物自体の深刻な故障発生が予想される。そのため、現況を把握したうえで具体的な対応を検討することとした。 ・一方で、現在の学習環境を維持するため老朽した建物及び設備の改修工事及び修繕を継続的に実施した。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の現況を把握するため、市内全小・中学校建物の躯体及び設備等の状況について、専門資格を有する職員により調査を実施した。 ・老朽化した建物及び設備の維持保全のため修繕等を継続して実施し、安全性確保を図った。 	B	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・建物調査の結果、塩害等により躯体自体に重大な損傷があり、近年中の対応が必要な学校等が発見された。児童・生徒数の急減及びこの結果を受け、「学校再編の考え方」の見直しに着手する。「学校再編の考え方」の見直しに合わせて改築も含めた建物の対応を検討していく。 ・令和5年度から耐震補強・大規模改修工事を予定していた大森小学校については、一旦立ち止まることとし、「学校再編の考え方」の見直しにあわせて、対応方法を検討する。 	総務課
安全安心な学校づくり事業	通学路の安全を確保するための通学路安全推進会議の実施 学校及び登下校時の児童生徒の安全を図るためのスクールガードリーダーの配置	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校から通学路の危険箇所について情報を収集した。 ・各学校から収集した情報を基に道路管理者等関係機関及び学校関係者による通学路合同点検を実施し、安全対策について協議した。 ・スクールガードリーダー1名により、各小中学校の巡回や情報交換を通じた安全指導を行った。 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・R5.1.12の五十猛小学校敷地内交通事故を受け、緊急的にスクールガードリーダーが市内全小中学校を巡回指導した。 交通安全協会等関係機関との連携強化により安全体制の推進を図る必要がある。 	総務課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標2 自立・共生する心

①人権・同和教育、道徳教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
自分にはよいところがあると思っている児童の割合	83.2%	70.9%	77.6%	84.9%	7.3%	増加	79.3%	
自分にはよいところがあると思っている生徒の割合	75.2%	68.8%	78.8%	77.4%	-1.4%	増加	78.5%	
人の役にたつ人間になりたいと思っている児童の割合	95.3%	—	94.8%	93.9%	-0.9%	増加	95.1%	
人の役にたつ人間になりたいと思っている生徒の割合	96.1%	—	95.2%	94.1%	-1.1%	増加	95.0%	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
教育相談事業	各校・園における人権・同和教育にかかわる取組の充実を図る。	【取組状況】 ・人権・同和教育主任者研修の開催【年2回】 ・人権推進課、校長会、大田市学校教育研究会等との共催による研修のうちの3回に全教職員の参加	A	拡大	進路保障連絡協議会、研修の開催については、根づいた取組となっているが、性の多様性や外国にルーツのある子どもなど、新たな人権問題についての研修を教職員と深めていく必要がある。多様な人権課題や多文化を理解する機会を積極的に設けていきたい。外国にルーツのある児童に対する支援を適切に行えるように、支援が必要。	学校教育課
人権啓発推進事業	平成26年度に制定した「大田市人権尊重まちづくり条例」に基づき、人権問題に関する講演会等の開催や人権啓発に関する広報活動を実施している。	【取組状況】 ・人権を考える市民のつどいの開催（全5回、参加者：延べ796人） ・人権の花運動の実施（市内全小学校16校実施） ・人権作文、ポスター、標語コンテストの実施（市内小中学校、高校、分教室25校実施）	B	改善	「人権を考える市民のつどい」では、多くの方に参加していただけるよう、引き続き様々な人権課題をテーマに設定する。 また、指導者の育成や、企業等に対する人権・同和問題に関する研修についても取り組む。 人権作文・ポスター・標語コンテストについては、県及び法務局で同様の事業があるため、教職員の事務負担軽減のため、令和5年度から事業を廃止した。	人権推進課
公民館運営事業 (人権推進事業)	主に成人を対象として、7ブロック公民館で各町のまちづくりセンターと連携し人権・同和教育に関する研修を実施				令和3年度末で公民館廃止	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②いじめ問題や不登校の問題への取り組みの推進と充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
いじめはどんな理由があってもいけないと思っている児童の割合	96.1%	-	97.6%	97.9%	0.3%	増加	96.8%	
いじめはどんな理由があってもいけないと思っている生徒の割合	94.6%	-	94.5%	97.6%	3.1%	増加	96.4%	
不登校児童・生徒出現率	1.9%	2.1%	2.6%	3.7%	1.1%	1%以下		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
児童生徒支援事業	不登校児童生徒の学校復帰を支援し、課題を抱える児童生徒及び保護者への相談体制を整備する。 いじめの未然防止・早期発見・対応を行う。児童生徒・学校を取り巻くいじめや不登校等の諸問題への対応の充実を図る。	①教育支援センター運営 不登校児童生徒や不登校傾向児童生徒の学校復帰に向け、ケース会等を行い支援の方法等を検討した。児童生徒や保護者への指導・支援により、改善傾向にある児童・生徒も増えた。 【通室者 小学生4人、中学生9人】 ②スクールソーシャルワーカー活用事業 児童生徒を取り巻く様々な問題に対応するため、スクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関との連携・調整を図り、諸課題に取り組んだ。 【3名配置・支援児童生徒数 26人】 ③いじめ防止対策推進事業 いじめ問題対策連絡協議会【1回】 いじめ問題専門家会議【1回】 ④子どもと親の相談員配置事業【4名配置】	A	継続	・不登校、不登校傾向の児童生徒数は、全国的、全体的に増加傾向であり、大田市でも小学校で倍増した。不登校児童生徒の状況はさまざまであり、本事業の支援を受けている児童生徒も多く、不登校の未然防止、早期発見につながっており、着実に継続することが必要である。 ・SSWが家庭に直接働きかけ、保護者からの信頼を得ることができ、家庭支援において成果があった。 ・子どもと親の相談員は、教室に入りにくい児童の支援を中心に行い、行き渋りのある児童の受入れに成果をあげている。昨年度から、4名体制で行っており、きめ細やかな対応ができています。	学校教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③特別支援教育の推進と充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
特別支援教育に関する教職員研修実施回数	5回	0回	1回	2回	1回	5回以上		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
特別支援教育体制推進事業	発達障がいを含む障がいのある幼児・児童・生徒の適切な教育的支援を進める。 ①就学支援委員会の開催 ②特別支援連携協議会の開催と大田市相談支援チームによる相談事業の充実 ③特別支援教育支援員、特別支援学級介助員の配置 ④新設特別支援学級の備品等整備 ⑤幼児期通級指導教室の設置	①就学支援委員会の開催【年4回】 ②特別支援連携協議会の開催【年1回】 相談支援チーム定例会の開催【年4回】 (新型コロナウイルス感染拡大予防のため2回実施) 大田市相談支援チームによる相談【のべ423回】 ③特別支援教育等支援員の配置【7校、14名】 特別支援学級介助員の配置【2校、4名】 ④特別支援学級の新設【3学級】 ⑤幼児期通級指導教室 R元年に久手幼稚園に設置。R3年度より大田幼稚園に移設 【延べ指導回数89回】 ⑥その他備品 肢体不自由学級新設環境整備に係る工事・備品(久手小)、 肢体不自由学級新設備品(長久小)	A	拡大	・多様な実態の子どもたちの相談のニーズが高く、継続推進をしたいが、相談支援にあたるスタッフが不足している。特に「幼児教育施設の現職スタッフの参画」「発達検査ができる心理士職スタッフの参画」が、急務である。 ・幼児期通級指導教室は4年目となり、ニーズが広がってきた。令和3年度は担当者を1名増とした。4年度はコロナの影響が大きく指導回数の減少傾向が見られた。利用児童の不利益が生じることがないように巡回による指導を行なう等、今後も柔軟な対応が必要。現在5歳児を対象として指導を行っているが、今後は、4歳児の指導も広げる。	学校教育課

④豊かな心を育む体験や文化芸術活動の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
文化芸術による子供の育成事業実施校数	3校	2校	3校	0校	-3校	4校以上		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
小学校体育文化振興事業、中学校体育文化振興事業	小中学校の体育文化事業の補助を行うことにより、学校等において、①本物の文化や芸術に触れたり、体験しながら、感性を高め、自主的に様々な活動に取り組み、取り組んだ体験活動や文化芸術活動の成果を発表する機会を設ける、②保健・体育では、運動意欲と体力の向上を図るとともに、中学校の運動部活動において活動の振興やレベルの向上に向けた意欲を喚起し、保護者負担の軽減を図る。	①児童生徒の輸送の経費や大会開催、吹奏楽部における県大会及び中国大会参加費等(移動、宿泊経費等)の補助を行った。 ・科学作品展開催費補助 30千円 ・各種文化事業参加経費補助(マーチング・アンサンブル島根県大会含む)583千円 ・弁論大会補助 39千円 ②各種大会の参加費(移動費、宿泊費含む)や、中体連の運営補助 ・中体連運営費補助 340千円 ・各種大会参加経費補助(県総体、中国、全国大会含む)2,489千円 ※連合運動会、連合音楽会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止	B	継続	保護者負担の軽減と活動の充実に向け、限られた財源の中でどこまで維持できるか不透明であり、事業内容の整理が必要となっている。	学事・魅力化推進室

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

本因坊道策顕彰等囲碁振興事業	大田市出身で棋聖と称えられる本因坊道策名人を顕彰し、囲碁の振興と普及を図り、囲碁によるまちづくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動等における囲碁教室：市内3校へ延97名の地元講師を派遣した。 ・囲碁授業：仁摩小学校で4回実施し、各回プロ棋士2名を派遣した。 ・本因坊道策記念囲碁大会：新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、代替措置として仁摩小学校囲碁大会を開催した。 	B	継続	囲碁を通じて、大田市の偉大な先人である「本因坊道策」を顕彰し、囲碁の振興と普及を図るため今後も継続して事業を進める。本因坊道策記念囲碁大会が新型コロナウイルス感染症の影響で4年連続中止となっている。今年度は代替措置として別の大会を開催したが、実力を試す場などの検討が必要である。	石見銀山課
「文化はまちの力」推進事業	第2期「大田市芸術文化振興計画」（2018～2027年）の具現化にむけ、芸術文化振興のための環境づくりや関係団体とのネットワークの構築を図る。大田市文化協会への活動補助を行う。	・大田市文化協会に対して、組織運営補助及び活動補助（文化祭、俳句大会、短歌大会、子ども書道展、市写真展等）を実施した。	B	継続	大田市文化協会の事業においても新型コロナウイルス感染症の影響で事業の中止や縮小となり、会員数の減少、事業の継続が課題となっている。	石見銀山課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標3 たくましく健やかな体

①学校保健、体育の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による児童(小5男子)の体力合計点平均値	55.98点	-	56.64点	53.94点	-2.7点	全国以上	52.28点	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による児童(小5女子)の体力合計点平均値	58.92点	-	57.77点	58.34点	0.57点	全国以上	54.31点	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による生徒(中2男子)の体力合計点平均値	41.39点	-	43.63点	44.76点	1.13点	全国以上	41.04点	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による生徒(中2女子)の体力合計点平均値	48.32点	-	53.22点	51.12点	-2.1点	全国以上	47.42点	
運動やスポーツをすることが好きな児童(小5男子)の割合	69.4%	-	74.0%	74.0%	0%	全国以上	-	
運動やスポーツをすることが好きな児童(小5女子)の割合	51.4%	-	60.0%	58.0%	-2%	全国以上	-	
運動やスポーツをすることが好きな生徒(中2男子)の割合	59.5%	-	74.0%	77.0%	3%	全国以上	-	
運動やスポーツをすることが好きな生徒(中2女子)の割合	44.3%	-	58.0%	56.0%	-2%	全国以上	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
【再掲】小学校体育文化振興事業、中学校体育文化振興事業	-	-	B	継続	-	学事・魅力化推進室
スポーツ推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力向上推進（学校スポーツテスト（小中学校）一括実施）。 大田市体育協会を通じて市民の健康体力づくりや競技力の向上に努める。 大田市健康体力づくり市民大会の実施。 指導者研修会等の開催、各種スポーツ団体が実施する研修会等への指導者派遣助成等。 三瓶クロスカントリー大会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年実施している子どもの体力向上推進事業（市内小中学校スポーツテスト一括実施）を行い、大田市と県・全国の比較を行った結果、大田市は持久力と握力が弱いという傾向をつかんだ。 大田市体育協会補助（31競技団体、25地区体協、3学校体育団体） 大田市健康体力づくり市民大会（12競技種目、延べ863人が参加） スポーツ普及振興事業（生涯スポーツ普及振興事業：2大会3団体に助成、リーダーバンク事業：67回延べ77人の講師派遣他） 三瓶高原クロスカントリー大会は、新型コロナウイルス感染症を考慮した開催方法について実行委員会において協議し、前年に引き続きオンライン大会を開催した。（参加者100名） 	B	改善	大田市体育協会の将来を見据えたあり方の検討や、スポーツ推進委員の活用方法など、スポーツに関連する事業推進体制の見直しが必要である。三瓶高原クロスカントリー大会の開催方法、実行委員会のあり方など持続可能な形態に向けての協議が引き続き必要である。	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②生涯・競技・障がい者スポーツの推進と連携

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
スポーツ指導者の地域への派遣延べ人数	37人	33人	66人	77人	11人	増加	-	
大田市健康・体力づくり市民大会参加者数	971人	732人	795人	863人	68人	増加	-	
総合型地域スポーツクラブ数	1団体	1団体	1団体	1団体	±0団体	2団体	-	
総合型地域スポーツクラブ会員数	89人	97人	110人	86人	-24人	増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】スポーツ推進事業	-	-	B	改善	-	社会教育課
スポーツ選手強化育成事業	トップアスリートと触れ合う機会を設定し、スポーツ活動の活性化を図る。	大田警察署が主催する柔道練成会にトップアスリート大野陽子選手が参加されるのに併せて12月16日に大田一中体育館において大田一中および大田西中の柔道部員を対象に柔道教室を開催した。	C	改善	トップアスリート招致については特定の種目に偏りがあるため、今後広く市民に対してスポーツの活性化を図れるように事業のあり方について検討する必要がある。	社会教育課
大田陸上競技場公認検定事業	・公益財団法人日本陸上競技連盟の公認料と派遣費用 ・陸上競技場4種公認（日本陸上競技連盟）継続申請（次期公認期間：平成30年9月10日～令和5年9月9日）のため競技用備品のリース代。	・リース料7,750,080円（60ヶ月）のうち12ヶ月分1,550,016円を支出（R5年度以降の残額645,840円） ※（税込8%）	B	改善	第4種陸上競技場の公認期間が2023年9月9日までとなっている。公認の継続更新を行うかどうかを含め検討した結果、今後は中体連の大会等も浜田地区で行われるなど、この会場で公式大会の開催がないことや更新にかかる費用を考慮し、次回の更新は行わない方針とした。	社会教育課
体育施設等整備事業	体育施設（総合体育館、大田市民第2球場、陸上競技場、クロスカントリーコース等）の整備	・芝刈機の購入（三瓶西の原2台） ・大田市民第2球場漏電調査等	B	継続	総合体育館のトレーニング機器が老朽しており、計画的整備が必要である。 陸上競技場の公認を更新しないことになったため、整備の在り方を検討する必要がある。	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③生活習慣の定着と食育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
平日2時間以上、テレビ、ビデオ等を見たり、聞いたりしている児童の割合	48.4%	48.1%	-	-	-	20%以下	-	
平日2時間以上、テレビ、ビデオ等を見たり、聞いたりしている生徒の割合	46.0%	40.8%	-	-	-	20%以下	-	
平日2時間以上、テレビゲーム(スマートフォン等を使ったゲームを含む)をしている児童の割合	55.5%	-	52.4%	32.8%	-19.6%	20%以下	50.2%	
平日2時間以上、テレビゲーム(スマートフォン等を使ったゲームを含む)をしている生徒の割合	50.1%	-	59.5%	54.8%	-4.7%	20%以下	50.3%	
朝食を毎日食べている児童の割合	98.9%	96.0%	97.2%	96.8%	-0.4%	増加	94.4%	
朝食を毎日食べている生徒の割合	95.0%	94.4%	94.8%	95.3%	0.5%	増加	91.9%	
学校給食の地産地消率	63.0%	61.7%	56.7%	77.4%	+20.7%	70%台		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
学校給食センター運営事業	①旬の地元食材を使った給食による地産地消と食育の推進 ②学校等における食育の推進	<p>〔取組状況〕</p> <p>①遼摩高校との連携事業として、遼摩高校生が地元で収穫された夏みかんを使って製造したマーマレードジャムを「鶏肉のマーマレード焼き」として学校給食で提供した。また、遼摩高校生が考えた「サバカレーチャーハン」を学校給食の献立に取り入れた。</p> <p>生産者と地産地消コーディネータ及び献立作成を行う栄養教諭の連携やJAや地元加工業者等の協力により、地元食材を利用した学校給食を提供した。</p> <p>②学級活動や給食時間に栄養教諭、学校栄養士が小中学校等を訪問して食に関する指導を行った。</p> <p>〔実績数値〕</p> <p>①学校給食の地産地消率は、77.4% (内市内産49.2%、県内産28.2%)</p> <p>②栄養教諭等の食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動等で食に関するTT指導 85時間 ・給食時間における指導 26施設 (延べ389回) 	B	継続	<p>物価高騰に伴い食材の選定が課題となっており、現行の給食費を維持するため、学校給食摂取基準に基づく栄養バランスを考慮した献立を考えると同時に、食材についても仕入れ価格を念頭に入れた選定が必要になっている。</p> <p>また、地元食材を学校給食で利用するためには、安定した生産量を確保することが必要である。</p> <p>引き続き、JAや加工業者との連携強化を行い、安定した地元食材の供給体制、供給方法について検討を進めて行く必要がある。</p>	学校給食センター

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

基本方針2 『「あるもの」を活かす』

重点目標1 「自然、歴史、伝統、文化」(レガシー)の継承

①自然・文化財の保存と継承

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
文化財保存活動団体数	16団体	17団体	17団体	17団体	0団体	17団体		
野生動植物保全団体数	22団体	22団体	22団体	22団体	0団体	増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
天然記念物管理 保護事業	市指定天然記念物「定め松」及び国指定天然記念物「琴ヶ浜」に関する保護事業。	・寿命が近づいている市指定天然記念物「定め松」の松くい虫防除、枯れ枝撤去、周辺の除草作業等を継続実施した。 ・琴ヶ浜管理保護事業として、ビーチクリーナーによる清掃活動を継続実施した。	A	継続	定め松は、樹齢推定400年の老木で寿命が近づいているため、保存活用を検討する必要がある。琴ヶ浜の清掃活動は引き続き実施する。琴ヶ浜保存活用計画の認定を文化庁へ申請する。	石見銀山課
埋蔵文化財調査 事業	大田市で所蔵・所在する埋蔵文化財(史跡・遺跡・発掘調査出土品)の整理及び台帳作成を行うとともに、公開活用する。また、開発工事等と埋蔵文化財・文化財の調整を行う。	・出土遺物の再整理及び台帳作成 ・整理事業公開及びミニ展示 ・見る・知る・触れる文化財講座「海のたたら」 ・教育月間フェスタでの出土品展示	B	継続	埋蔵文化財をはじめ、市内にある文化財等を調査するとともに適切に管理し市民に公開できる環境整備が必要である。	石見銀山課
大田市文化財保 存活用地域計画 策定事業	大田市文化財保存活用地域計画の策定に取組み、まちづくりや観光・防災などの他の行政分野と連携し、文化財の保存・活用と持続可能なまちづくりを進める。	・令和3年度に完成した計画案の修正や認定申請を行い、令和4年12月に文化庁長官の認定を受けることができた。 ・認定を受けた計画本文および概要版の印刷製本を行い、関係各所へ配布し、計画の周知を図った。	A	継続	今後は計画に基づいて、継続的、計画的な文化財の調査、保存、活用を行っていく必要がある。	石見銀山課
【再掲】「文化 はまちの力」推 進事業	第2期「大田市芸術文化振興計画」(2018~2027年)の具現化にむけ、芸術文化振興のための環境づくりや関係団体とのネットワークの構築を図る。各地域の無形民俗文化財、天然記念物保存団体、市内小中学校愛護少年団への活動補助を行う。	・各種団体への活動補助金を交付した(無形民俗文化財保存団体3団体、天然記念物保存団体4団体、文化財愛護少年団4団体)。	B	継続	新型コロナウイルス感染症の影響で活動を中止した団体が6団体あった。コロナ終息後の活動再開ができるよう引き続き支援する。	石見銀山課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②世界遺産石見銀山遺跡の保存と活用

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
石見銀山保全活用事業(ボランティア・協働)件数	4件	4件	5件	5件	0件	増加		
石見銀山学習実施学校数	22校	22校	21校	22校	1校	全校実施		
重伝建大森銀山地区特定物件の整備率	55.1%	55.2%	55.6%	55.9%	0.3%	57.0%		
重伝建温泉津地区特定物件の整備率	30.8%	32.3%	32.3%	33.1%	0.8%	36.1%		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
石見銀山遺跡総合調査事業	遺跡の価値向上、来訪者の増加・理解促進に向け、発掘調査・文献調査・テーマ研究等を計画的に実施するとともに、各調査で得られた成果を報告書にまとめて刊行する。また、成果及び出土品については世界遺産センターで公開活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 大谷地区(大森町)の発掘調査を実施 調査報告書として「石見銀山遺跡発掘調査概要30」を刊行 大久保間歩坑内の犬釘3点の保存処理を実施 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> 大谷地区の調査区域の拡大 価値理解の促進につながる調査地点の選定 調査成果の説明の充実による来訪者への満足度の向上 	石見銀山課
石見銀山遺跡総合整備活用事業	①重点的整備による魅力向上、②安全対策の継続実施と拡充、③歴史的建造物の保存・活用、④持続可能な整備管理のための体制、手法の導入、⑤資産情報の積極的提供の5つの方針のもと、遺跡の整備・修復等を実施	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に崩落した清水谷製錬所跡の石垣復旧工事を実施した。 佐毘売山神社周辺見学道の整備工事を継続して実施した。 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> 重点的整備により魅力を向上させるとともに、活用を図る 安全対策の継続実施と拡充 	石見銀山課
重要伝統的建造物群保存地区整備事業	伝統的建造物群保存地区である大森銀山地区と温泉津地区を保存するため、建造物等の修理・修景費補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地区内に残る伝統的建造物の修理に対して国庫補助事業を実施(大森銀山地区2件、温泉津地区で2件の修理)。 大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会を開催し、審議委員の承認を得ながら修理事業を実施。 地区内の現状変更についての指導助言し、町並み景観の保全を図る。 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> 地区内に多く残る危険家屋の解消。 地区内の伝統的建造物の活用と持続可能なまちづくりとの連携。 両地区の実態にみあった保存管理計画の見直し。 建築基準法の緩和条例の制定。 	石見銀山課
石見銀山学習支援の推進	石見銀山学習の基金等による学習支援の充実と副読本「わたしたちの石見銀山」の活用	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校22校が行った石見銀山学習に対し支援を行った。また、市外からも3校が実施した。 学習内容については、副読本や現地学習の手引き学習プログラムの参考例を掲載したほか、専門職員による現地学習での解説などをおこなった。 	A	継続	より充実した学習内容とするため、手引きの事例や世界遺産連絡協議会の取組などを取り入れ、市内外の学校の連携を図る。	石見銀山課
I C T等による石見銀山多言語解説整備事業	「わかりにくい世界遺産」と称される石見銀山の状況を、観光庁の直接事業で支給された翻訳文をもとに「わかる世界遺産」となるよう、I C T等を用いた整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> QRコードを活用した多言語現地説明板にポーランド語を追加した 坑内探査のモニターツアーを動画撮影し、「自然との共生」をテーマに編集公開した。 情報発信として、訪日客向け大手サイト「ジャパンガイド」に英語文と紹介QRコードを掲載した。 	A	継続	コンテンツの整備や多言語対応により、わかりやすい情報発信と機能強化を図る。	石見銀山課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③石見銀山学の形成と大田市史の編纂

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
石見銀山学講座開催回数	—	0件	2回	2回	0回	増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
石見銀山学形成事業	石見銀山遺跡を中心とする地域遺産（文化財）の基礎情報の整理と発信等を行うとともに、市民への公開講座の開催や概説書の刊行による地域学の形成の促進を目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家を中心に執筆された概説書「銀の巻」を刊行した。 市内小中学校での石見銀山学習を推進した。 	A	継続	・刊行計画により概説書の編集、刊行を行う。	石見銀山課

④地域の伝統・文化等の継承と人材の育成

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
市民会館での企画・鑑賞事業の実施数	13回	16回	12回	14回	2回	増加		
市民会館での企画・鑑賞事業の入場者数	3,862人	1,399人	2,872人	2,649人	-223人	増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】「文化はまちの力」推進事業	第2期「大田市芸術文化振興計画」（2018～2027年）の具現化にむけ、芸術文化振興のための環境づくりや関係団体とのネットワークの構築を図る。「難波利三・ふるさと文芸賞」の後継事業として「ふるさとそして未来」作文コンクールを実施。芸術文化振興計画推進事業として、鑑賞事業や大田市出身の文化人の継承、伝統行事の保存活動を実施。	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中学生を対象とした「ふるさとそして未来」作文コンクールを実施し、個人総数46点、団体総数1団体の応募があった。 作文コンクールの授賞式や受賞者の朗読などの様子は「おおだ教育の日フェスタ」で映像配信を行った。 大田市文化協会委託事業として、出張出前シアターや、大田市出身の文化人の講演会を実施した。 	B	継続	大田市の文化財や文化人を顕彰し、発信していくことにより保存と継承を図る。	石見銀山課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

⑤地域資源を活用したふるさと教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
ふるさと教育における地域講師の延人数	1,100人	662人	669人	584人	-85人	増加		
地域でのふるさと教育事業実施数	19件	16件	16件			増加		
【再掲】県立自然館や三瓶小豆原理没林公園で体験学習をおこなった学校数	13校	13校	14校	15校	1校			1-1-②

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	-	-	A	継続	-	学事・魅力化推進室
ふるさと教育推進事業	地域(ふるさと)の教育資源である「ひと・もの・こと」を活かし学校と家庭と地域が一体となって児童・生徒の生きる力を養い、心豊かでたくましい子どもを育成する地域の体制づくりに取り組む。				令和3年度末で公民館廃止	社会教育課

重点目標2 ESD (持続可能な社会の担い手を育む教育)

①ESDによる学校教育の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
ESD・SDGsの視点に立った学校での取り組みの実施数	15校	20校	18校	21校	3校	全校		
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童の割合	46.9%	45.2%	48.4%	41.1%	-7.3%	増加	51.3%	
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある生徒の割合	43.8%	43.7%	50.3%	44.8%	-5.5%	増加	40.7%	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	-	-	A	継続	-	学校教育課
【再掲】石見銀山学習支援の推進	-	-	A	継続	-	石見銀山課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②ESDによる社会教育の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
ESD・SDGsの視点に立った公民館事業の実施数	93回	90回	83回			増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
公民館運営事業	「持続可能な社会」を担う人づくり、心豊かな人生の応援を基本方針としてESDをはじめとして様々な視点に立った学習や活動の展開により地域を愛し、支え、創る担い手を育て				令和3年度末で公民館廃止	社会教育課

重点目標3 教育の魅力化

①地域の特色を活かした学校教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
【再掲】計画期間中に長期宿泊体験活動をおこなった小学校数	16校	0校	3校	1校	-2校			1-1-②
【再掲】ふるさと教育における地域講師の延人数	1,100人	662人	669人	584人	-85人			2-1-⑤

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
高校コンソーシアム運営マネージャー配置事業	市内県立高校（大田高校、瀬摩高校）の特色ある教育活動の支援による教育魅力化の推進や、高校と地域住民等の参画により魅力ある高校づくりに取り組む高校魅力化コンソーシアムの運営等の支援のため、高校魅力化コンソーシアム運営マネージャーを各校1名ずつ配置。	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間における地域魅力発見学習・地域課題解決型学習における地域住民・関係機関等との連携調整、運営の補助 地域みらい留学への参画 おおだ共育共創ラボ（ダイコウラボ、課外ラボ）の実施 【多様な出会いや機会の創出と高校生と地域の大人が一緒になって、高校生が考える身の回りの課題解決や「こんなことやってみよう」という思いの場の提供】 総合的な探究の時間の各事業における地域・関係機関との連携調整 道の駅「ごいせ仁摩」との連携 高校魅力化コンソーシアムの取組【各高校魅力化コンソーシアム役員会の開催（各校2回）、市議会連携事業…生徒が持続可能都市大田市を目指すための模擬請願を作成し、市議会議員へのプレゼンテーション実施 学校説明会による生徒募集 <p>【実績数値】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校魅力化コンソーシアム運営マネージャー 2名 	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> 各校の高校コンソーシアム運営運営マネージャーが、それぞれの特色ある教育活動に地域を巻き込んでしっかり関わることにより、学校と地域との繋がりがより一層強化された。今後は、これまで高校コンソーシアム運営マネージャーが取り組んできた財産を引継ぎ、学校が主体性を持ってその大切な繋がりを活かせるよう学校側と連携しながら取組を進めていく。 ここ数年の市内県立高等学校への市内中学生の進学率は6割前後を推移している。一定数は市外へ進学することを考慮すると妥当であり、この数値を維持することを目標に今後も市内県立高等学校への進学促進のため取組を継続していく必要がある。 	学事・魅力化推進室
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	-	-	A	継続	-	学事・魅力化推進室

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R4年度実績）	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
就学前教育推進事業	乳幼児期の教育について統一カリキュラムの普及啓発を行うとともに、教育的効果の高い読書活動を推進するため、子ども読書活動推進員を配置し、市内幼稚園、保育園等への指導・助言を行う。	【取組状況】 ・子ども読書活動推進員を配置【1名】 ・教育的効果の高い読書活動を推進するため、市内幼稚園や保育所等への指導、助言。【50回】 ・理科読の実施【15回】 ・幼稚園、保育園貸用図書整備 貸出用購入冊数【90冊】 親子読書用図書貸出冊数【7,945冊】	A	継続	・就学前の読書活動の大切さについて、広く理解が深まりつつある。子ども読書活動推進員の指導、助言を継続的に行う必要がある。 ・幼児教育施設での「理科読（乳プログラム）」の実践については、過去3年間は大学の研究補助事業として無料で行ってきた。今後、教育的効果の高い「理科読」の推進のための予算の確保、人材育成等が必要である。 ・各園等へは地元企業からの絵本・紙芝居の寄贈が240冊（作）あったが、本は消耗品であるため、担当課と連携しながら、蔵書も含めた読書環境の整備が必要である。また、それに関わる人的配置、研修の必要性がある。	学校教育課
【再掲】学力・教育力向上プロジェクト事業	—	—	A	継続	—	学校教育課

②山村留学事業の魅力化の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備考
山村留学長期留学生数	11人	13人	15人	11人	-4人	15人		
山村留学短期留学参加数	302人	7人	14人	37人	+23人	400人		
【再掲】計画期間中に長期宿泊体験活動をおこなった小学校数	16校	0校	3校	1校	-2校			1-1-②

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R4年度実績）	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
山村留学推進事業	山村留学事業を大田市の魅力ある教育施策のひとつとして位置付け、事業の魅力化を推進。	【取組状況】 ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を行い保護者来園活動と長期山村留学を希望する親子に対して親子体験留学を実施した。 ・施設見学及び山村留学事業内容をオンラインにより情報発信することができた。 【実績数値】 ・長期留学生11人 ・短期山村留学生37人（冬の山村留学19人、親子体験留学者18人）	B	縮小	・長期留学生及び受入農家の確保 ・北三瓶地区住民の山村留学に対する支援体制の強化 ・短期留学などの自然体験活動を実施する際のボランティアの確保 ・事業継続のための財源の確保 ・施設設備の修理・改修の取り組み ・山村留学の魅力の情報発信の継続（しまね留学との連携、県主催説明会・相談会への出店、SNSによる情報発信の継続） ・コロナ感染防止対策に対応した山村留学事業の実施 ・近隣の社会教育施設との連携推進による魅力あるメニューの創設	山村留学センター

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③高校の魅力化の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
大田市生徒が市内県立2高等学校へ進学する割合	56.0%	61.4%	62.3%	61.5%	-0.8%	増加		
市内県立2高等学校より就職する生徒のうち市内に就職する生徒の割合	45.2%	51.9%	51.6%	51.5%	-0.1%	60.0%		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室

基本方針3 『地域を支え、創る』

重点目標1 子育て(乳幼児期)のとらえなおし

①就学前教育の充実と読書活動の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
小学校1年生の問題行動件数	28件	35件	19件	31件	12	参考値		
就学前の読書活動のための図書館団体貸出年間冊数	7,829冊	7,790冊	7,811冊	7,966冊	+155冊	10,000冊		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】就学前教育推進事業	—	—	A	継続	—	学校教育課

②乳幼児期の教育環境の充実

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】特別支援教育体制推進事業	—	—	A	継続	—	学校教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③家庭教育支援の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
親学講座の実施回数	14回	8回	8回	7回	-1回	増加		
親学講座の参加者数	243人	83人	85人	125人	+40人	増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
学校・家庭・地域の連携による教育支援事業 (家庭教育支援事業)	未来を担う子どもたちを健やかに育むため、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもを育むための体制づくりを充実させ、地域の教育力の向上を図る。	【取組状況】 家庭教育支援として「親学プログラム」を活用した講座等を提供し、子育ての捉え直しを行った。 【実績数値】 「親学プログラム」実施回数 7回 延125人参加	B	継続	講座受講者数の更なる拡大に向け、保護者会等各団体へ積極的なアプローチが引き続き必要である。	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標2 学校・家庭・地域の協働

①地域と共にある学校づくりの推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
コミュニティ・スクール指定校数	6校	7校	12校	20校	8校	22校		全校
【再掲】地域行事に参加している児童の割合	81.7%	67.8%	76.8%	70.1%	-6.7%	0.0%		1-1-②
【再掲】地域行事に参加している生徒の割合	58.1%	60.9%	60.2%	49.8%	-10.4%	0.0%		1-1-②
見守り隊や環境整備など学校支援ボランティア数	448人	410人	473人	438人	-35人	増加		
【再掲】ESD・SDGsの視点に立った学校での取り組みの実施校数	15校	20校	18校	21校	3校	0		2-2-①

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】小中高魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
学校・家庭・地域の連携による教育支援事業 (地域学校協働活動支援事業)	未来を担う子どもたちを健やかに育むため、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもを育むための体制づくりを充実させ、地域の教育力の向上を図る。	<p>【取組状況】地域住民が学習支援、環境整備、登下校の見守りなどボランティア活動や放課後子ども教室事業といった「地域学校協働活動」に参画し、事業を通じて地域のつながりを深めた。また家庭教育支援として「親学プログラム」を活用した講座等を提供し、子育ての捉え直しを行った。</p> <p>【実績数値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部事業 5本部設置 地域ボランティア438人登録 ・放課後子ども教室事業 市内5教室、参加人数延4,218人(うち、子ども3,527人)、 ・「親学プログラム」実施回数 7回 125人参加 	B	継続	各学校の専任コーディネーターやボランティア、安全管理員の確保やコミュニティスクールとの効果的な協働・連携体制に努める必要がある。家庭教育支援について、親学ファシリテーターの養成が必要である。	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②公民館を核とした社会教育活動の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
【再掲】ESD・SDGsの視点に立った公民館事業の実施数	93回	90回	83回			0		2-2-②

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】学校・家庭・地域の連携による教育支援事業 (地域学校協働活動支援事業)	—	—			—	社会教育課
【再掲】公民館運営事業	—	—			—	社会教育課

③図書館機能の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
図書館貸出冊数(年間1人当たり)	5.0冊	4.3冊	4.7冊	4.3冊	-0.4冊	6.9冊		
児童・生徒の年間図書貸出冊数(総数)	30,385冊	19,879冊	20,398冊	16,690冊	-3,708冊	40,000冊		
保育所、幼稚園等への貸出冊数	7,829冊	7,790冊	7,811冊	7,966冊	+155冊	10,000冊		
図書館企画事業回数	138回	58回	31回	26回	-5回	増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
大田市中心図書館管理運営費、生涯学習センター(仁摩図書館)管理運営費、温泉津図書館管理運営費	市民や学校、企業への資料を的確に提供する。また市民の自主的・自発的に学習活動する場の提供や企画事業の充実を図る。	参考となる資料や学習を深める資料の充実を図り、職員が市民の必要とする資料への橋渡し役となった。 また、例年のとおり、古文書を読む会、各種展示を行い、ボランティアの協力を得て、おはなし会を実施した。	C	改善	幅広い世代が図書に親しむ機会を拡充するため、図書館を快適に利用できる環境整備が必要である。	社会教育課
図書館蔵書整備事業	情報提供を行うために資料の充実を図る。	【蔵書冊数】 ・大田市中心図書館 180,487冊 ・仁摩図書館 53,299冊 ・温泉津図書館 12,773冊	B	継続	寄贈図書を取り入れるなど、必要な資料の確保が必要である。	社会教育課
大田市中心図書館環境整備事業	経年劣化した照明機器を更新すること及び、2階回廊の改修を行い文化施設として市民の利便性向上を図る。	全ての照明機器を撤去し、LED機器を導入。2階回廊の改修を行った。 設計業務委託料 1,650千円 工事請負費 38,326千円 14,274千円 冷暖房効果が高く、利用者に快適で安全・安心な読書・学習環境を提供できた。また、細かいエリアごとの温度設定が容易に可能となった。	A	継続	建築後一定の年数が経過し、設備の状態が劣化していくことが予想される。引き続き、市民に親しまれる環境づくりが必要。	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標3 担い手の育成

①キャリア教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
職場体験学習が有意義だったと思う生徒の割合	98%	—	—	—	—	100%	—	
職場体験実施事業所数	145箇所	—	—	—	—	参考値	—	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室

②持続可能な地域を担う人づくりの推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
公民館事業の地域活動における住民の参加者数	4,060人	2,310人	2,055人			増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】公民館運営事業	—	—			—	社会教育課

令和4年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③国際的な人材の育成

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R4)	備 考
まちづくりセンター等での国際交流事業実施回数	5回	8回	-			増加		

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R4年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
英語指導外国青年招致事業	市内小中学校へ外国語指導助手 (ALT) を派遣し、教諭による外国語教科指導及び外国語活動の補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手5名が巡回訪問を実施。(1名はALTコーディネーター業務も兼ねる)。 学校への派遣日数(勤務日数/週) 大田小2.5、久手小1.5、長久小・静間小・朝波小・温泉津小・仁摩小1、 その他小学校0.5日 第一中4、第二中2.5、大田西中1.5、その他中学校1 ・その他派遣実績 亀の子、五十猛児童クラブ、仁摩保育園等 合計12回派遣 	A	継続	令和2年度からの小学校での英語教育の本格的な実施に伴い、外国語指導助手の必要性は増している。	学事・魅力化推進室

Ⅲ 外部評価者の意見

1 評価者

松浦 利幸 (国立三瓶青少年交流の家 次長)

田邊 智子 (大田市社会福祉事業団 理事長)

中村 邦宏 (大田市PTA連合会 理事)

2 評価者の意見

松浦 利幸 P39 ~ P40

田邊 智子 P41 ~ P42

中村 邦宏 P43 ~ P44

令和4年度 大田市教育委員会の事務に関する点検・評価について

松浦利幸

令和5年10月23日、令和4年度「大田市教育ビジョン」の施策について、教育委員会各課より取組の概要、評価、今後の対応等について詳細な説明を受け、意見交換を行いました。

以下、外部評価者のひとりとして所見を述べさせていただきます。

大田市立川合小学校見学

○池田小学校との統合後による今年度の様子について、坂田校長先生より説明をいただきました。池田小学校出身の児童は早朝からのスクールバスでの通学を始め、学校生活に順応できていること、「田植え囃子」等の地域連携事業には川合小学校出身の児童も積極的に参加している様子を知ることができました。その後、高木教頭先生の案内で各学年の授業を見学させていただきました。授業では電子黒板の導入によるわかる授業の実践に取り組む先生方の姿がありました。令和の日本型教育に求められる学力とは何か、大田市の子供たちに必要な生きる力、生き抜く力とは何かを考えさせられる貴重な時間となりました。

基本方針1～3を通じて

○全国学力・学習状況調査結果については全国平均を下回っていますが、この結果は教員の授業改善のための示唆として受け止めれば良いと思います。学校教育課からも、「結果に一喜一憂することなく」とのコメントがありました。3か年計画で取り組まれている「大田市学力育成プロジェクト事業」における授業づくり講座や体験事業を通じて、教員、児童・生徒双方の学ぶ意欲が、着実に芽吹いていくことと思います。

「主体的・対話的で深い学び」と言われて久しいですが、学力育成の要素は学校内の教育活動だけでなく、社会体験や自然体験等、学校を離れて行う社会教育活動にも多く含まれていると思います。生きる力を育む体験的な学びが各学校でさらに展開されることを期待しています。

○令和4年度より開催された「おおだ教育魅力化推進会議」に委員として参加し、貴重な勉強の機会をいただいています。大田市の教育の未来に関する皆様のお話は、夢・理想を描く内容が多いため、このことを大田市の現実に照らし合わせ、小さなことからどう具現化していくかが求められると思います。この会議は何のために開催しているかを明確にし、教育現場にどう落とし込んでいくかを整理していく時期にあると思います。

○10月25日、性同一性障害特例法規定について最高裁における違憲判決がありました。近年の様々な人権課題の中で、性の多様性に関する理解と対応は第一に考えなければならないものです。学校現場においてはハード面で様々な対応がなされていますが、今後さらに重要となるのは児童・生徒の正しい理解と心を揺さぶる人権教育を重ねていくソフト面にあります。人権とは「すべての人々が幸せに生きる権利」のことです。偏見やいじめ等により、幸せに生活を営む権利が侵害されている子供を決してつくらぬよう、教職員が共通理解を持ち、意見やアイデアを出しながら人権教育の授業を構築、実践してほしいと思います。また、まちづくりセンターを始めとし

た地域の皆様にも授業を公開し、その後の教職員研修（振り返り等）にも参加いただき、思いを共有する機会を持てれば良いと思います。

○不登校の児童・生徒は年々増加傾向にあるようです。これは大田市に限ったことではありません。私の勤務している国立三瓶青少年交流の家では、不登校の児童・生徒が当所での自然体験活動や人間関係づくりプログラムを体験し、学校とは違う場所で当所職員や同じ悩みを抱える仲間と交流することにより、少しでも生きる力を育める居場所になれたらと考えています。当所からアプローチするにはハードルが高いため、学校教育課を中心に検討され、相談いただければと思います。

○昨年度より設置された社会教育推進センターは今年度末で閉所され、社会教育事業はまちづくりセンターに移ると聞いています。社会教育についての大田市職員の皆様の理解はいかがでしょうか。社会教育は教育委員会のみが推進していくものではありません。学校外の教育はすべて社会教育であり、教育は児童・生徒のみが受けるものでもありません。職場や地域における人の繋がり、人権教育やハラスメント対策、サービスに関する研修等々、「社会教育＝人づくり」であることを考えれば、職員全員で共通理解を持って進めていくべきものと思います。

○今や高校生の探究活動は各校の必須事項となっています。地域の魅力や課題を発見し、このことを「何故」、「どうやって」と考え、解決策を導き出そうとすることが探究活動です。そのような学習過程の中で、高校生は自らを見つめ、夢を探していくことになります。卒業後、島根県外に進学・就職しても、高校時代の探究活動の体験が地元愛を深め、地域の発展に貢献したいという若者を増やすことに繋がるかもしれません。そのような意味でも学校と地域を繋ぐ魅力化コーディネーターの存在は大きいと感じます。

○高等学校2校が行う「しまね留学」、山村留学センターにおける留学生の募集活動は、山と海の双方が体験できる大田市の魅力発信にも大きな効果があると思います。その反面、受け入れた留学生が不登校傾向や生徒指導面での問題を抱える子供であることを、入学後に気付くことも少なくなく、島根県教育委員会も切実な問題として受け止めていると思います。教員の指導負担にも繋がるこのことについて、大田市教育委員会としても、その教育効果の検証を行っておくべきとは感じます。

おわりに

令和5年9月28日の山陰中央新報にて「大田市小中学校再編3素案」が掲載され、大変驚きました。今後、再編への取組のため長きに渡り労力を費やされることと思います。この再編が大きな教育効果を生み出されることを期待してやみません。

去る7月5日に大田市、飯南町及び美郷町と国立三瓶青少年交流の家で連携協定を締結しました。地元にある国立の社会教育施設として、子供たちの自然体験活動や人間関係づくりによる生きる力、生き抜く力を育成するため、研究、実践を重ねていきます。当所からの提案、アプローチはもちろんのこと、大田市教育委員会におかれましても、身近な施設として遠慮なくご提案や協力要請をいただければと思います。

最後になりましたが、昨年に引き続き外部評価者として貴重な機会を与您いただきありがとうございました。大田市教育の未来に向けて微力ではありますが今後も協力していきます。

令和4年度教育委員会の事務に関する点検・評価の意見

田 邊 智 子

10月23日、令和5年4月池田小学校と統合された川合小学校の統合までの取り組みそして現状報告を受け各学年の授業を見学した後、市役所にて教育長、教育部長はじめ教育委員会各課から各課毎にまとめられた主な取り組み報告を聞き「令和4年度教育ビジョン基本計画」の取り組み評価・今後の対応につき詳細に説明を受けると共に意見交換を致しましたので外部評価者として意見を提出致します。

1. 全体評価

大田市教育基本ビジョン基本計画(後期計画)(令和3年度～令和7年度)における令和4年度事業達成度の自己評価において、57事業の評価項目のうち、取り組みが実施・概ね実施ができたが55(96.5%)項目、あまり実施できなかったが2項目(3.5%)ほとんどできなかったは0項目でした。令和3年度(実施・概ね実施93%)と比較し新型コロナウイルスの影響がより大きい中で実施率は高く、項目ひとつひとつをしっかりと分析された上で目的を明確に示し更によりレベルの高い取り組みに発展・実践されている事を全体を通じ評価致します。

2. 基本方針別取り組み所見

(1) 生き抜く力を育てる

① 学力・教育向上プロジェクト事業

学力・学習状況について、全国、県平均を全て下回る結果にその向上が本年も課題としてあげられています。開始された「大田市学力育成プロジェクト事業」において県立大学齊藤一弥先生の指導の基「家庭学習の充実」「本物に触れ豊かな体験活動」「授業づくり講座」等を通じ児童・生徒の学ぶ意欲、教員の授業改善意識の向上が高まり始めたと報告を受けました。教員不足や時間外勤務時間の課題とも合わせ意欲意識の変化を大切に、状況確認をしながら継続した効果的取り組みが必用と思います。

② 学校教育環境の整備

ハード面において学校再編財政の関係もありますが定期点検を実施し安全確保に取り組むことを要望します。またソフト面において、いじめ不登校、多様な子どもたちの支援に取り組みられ共生の理解を育むと共に、給食面においても安心な食材提供や食育指導を通じた心と体の健康づくりを継続される等「安全安心な学校づくり」は基本で重要な取り組みであると考えます。

③ 体験活動による確かな学力の育成

ふるさと夢未来講演会が継続され、新たに「おおだ未来☆夢ランド」が開催されました。市内外の幅広い分野の委員から頂いた意見は将来を見つめた上で今出来る事今必要な事を整理し、是非実施し見える化して頂きたいです。

(2) 「あるもの」を活かす

① 地域資源を活用したふるさと教育の推進・家庭教育支援の充実

大田市の「ひと・もの・こと」資源を活かしたふるさと教育を推進されています。昨年の評価意見で保育園との連携の必要を述べ、当法人の保育園で、「大田市が大好きな子を育てる」保育に取り組んでいます。その中で大田市の魅力をまず保育士が知る事、そして「親学」の必要性を感じました。親世代にも一緒に大田の魅力を伝える事でより効果的なふるさと教育に繋がると思います。

② 「文化はまちの力」推進事業

コロナ過の影響で活動が休止・中止する文化・伝統関係団体が複数あります。大田市の素晴らしい文化・伝統を継承する人材を欠かさない為にも今こそ人材の高齢化・少数化・活躍の場など多角的視点での支援をお願いします。

(3) 地域を支え、創る

① 地域と共にある学校づくりの推進

学校は地域の中心であり、令和4年度市内7ブロックに社会教育コーディネーターを配置し地域と学校が連携・共同する体制が構築されていると報告にありました。逆に再編で学校がなくなると地域の役割の消滅や地域行事伝統文化の衰退の不安が生まれるのではないのでしょうか「学校なくてもこどもは地域の子」再編課題には地域コミュニティの衰退がないように支援する事も必須と考えます。

3. 終わりに

池田川合小学校統合で、重視した事は「1. 児童を中心に考えること」「2. 地域の思い・願いを(丁寧に)聞くこと」でしたと説明を受け授業を見学しました。4年生は統合まで池田小学校で取り組んできた希少植物の保全活動を引き継ぎヒロハノカワラサイコを三瓶の自然を守る会の伊藤様に指導を受け4月から育て、10月に志学小学校(ユウスゲ)、北三瓶小学校(オキナグサ)と一緒に植栽をされた時の授業でした。児童の感想で「3校でやったから良かった、それぞれの違いがわかった。」と紹介されました。校長先生から統合して、体験の幅や人との出会いの幅が広がり沢山のひとと学ぶことで他との違いに気づき、フィールドが2倍3倍にも広がりました、さらに専門家(本物)に指導を受ける事で意味・意義や知識を深める事ができました、と話された。池田地域での保全活動や田植囃子を川合小学校で池田川合両地域のこどもが引き継ぎ増えた人数で文化伝統を守る事にも繋がっていました。川合小学校見学を通して教育委員会の(本物・価値観)取り組みが現場でしっかりと実践されている事を感じ、楽しく授業を受ける児童の姿が印象に残りました。

3度目の外部評価を担当させて頂きました、多岐に渡る教育委員会の業務を計画的に熱意をもって取り組んでおられる事が今年もよく解り心より敬意を表します。継続した課題に新たな課題も生じていますが、その課題は管・民一体となり取り組む課題です。「わが里を誇り大田と世界の未来を拓く」取り組みを今後もリードして下さい。

令和 4 年度 大田市教育委員会の事務に関する点検・評価の意見書

中村 邦宏

10 月 23 日、大田市教育委員会が所管する事務事業について、教育長、教育部長、教育委員会各担当課から「大田市教育ビジョン」の基本計画における取組と自己評価、今後の課題等の説明を受けました。また学校再編に係る学校の様子について、実際に川合小学校に赴き、授業風景の見学や学校統合についてのこれまでの経緯など説明を受けました。外部評価者として、所見を述べさせていただきます。

【全般的所見】

・令和 4 年度は、評価対象の 57 事業において、区分の A 及び B の評価が 55 事業と、全体の 96% を占めており、高い割合で達成しているものと評価いたします。評価が C 及び D であった 2 事業に対して、①スポーツ選手強化育成事業では、大田市のやる気と目標がある児童達に、今後世界を狙える選手になってほしいのでトップアスリートとの交流を検討してもよいと思いました。②大田図書館管理運営費については電子書籍が増えてくる中で、本を読むことが少なくなっていると思いますが、参考書を見ながら図書館で勉強や調べものをする人たちはいますので、今後も図書館を快適に利用できるように環境整備を改善してほしいと思います。

・今後の取り組みとして、「同様の取組を推進」する事業が 45 事業あります。ある程度結果に基づいて事業継続になったと思いますが、その時その時で求められるニーズも変化しているので市民の声を聴きながら検討していくことを願います。ウイズコロナ、少子化が増々進行する中で、大田市が直面している様々な教育課題は、今後も大田市教育委員会を中心に、地域や家庭、そして県とも連携しながら、課題の解決に向けた取り組みの推進が必要不可欠です。課題を先送りすることなく来年度以降も、全事業の達成度が向上することを期待します。

【部門別所見】

①生き抜く力を育てる

○学力・教育力向上プロジェクト事業

学校によっては平均を上回る場所もありますが、市全体で考えると特に算数と数学で県平均を下回り、学年があがるにつれて県との差も開いていく現状になっています。算数、数学は基礎が理解できないと難しいと思うので、基礎学力が身に着けば結果につながるように思います。学力は学校のみでは限界があると思います。教職員の質向上のため様々な研修など対策がなされていますが、家庭学習はじめ保護者との連携も必要だと思います。子供達には勉強がなぜ必要なのか、将来なりたい職業になるためにはどのような勉強が必要なのか。そういったことを知ることで勉強への取り組みが変わってくるのではないかと思います。

○安全安心な学校づくり事業及び校舎等改修事業

少子化の波により小学校の再編が議論されています。それに伴い将来必要性が低くなる建物に改修などすることは限られた予算の中では難しいと思いますが、現在耐久年数や劣化などで危険建物もあります。

なにか起こってからでは遅いので、再編議論を加速し緊急性と必要性が高い項目から着手してもらいたいです。また、島根県内で大田市は洋式トイレ入れ替え率がワースト 1 と報道されました。これらも再編のためなかなか着手できないとありましたが、保育園との連携もあり、また和式トイレが使用できない子もいるので早急な対策を希望します。

○いじめや不登校児問題への取組み

不登校児童生徒数は増加傾向にあります。対人関係など様々な要因があると思いますが、現在の教育では必ずしも学校に行く必要はなく、個人にあった学習ができるように対策されています。またスクールソーシャルワーカーを配置するなど対策を評価できますが、今回外部評価者として話を聞くまで知らないことがあったので、もっと情報発信の必要性を感じます。

② 「あるもの」を活かす

○石見銀山関連事業

世界遺産の石見銀山について市内小中学校 22 校が石見銀山学習を行っています。恥ずかしながら自分自身は石見銀山に赴くことがなく、よく知らない人がほかの保護者にもいるかもしれません。保護者と一緒に学習できるような取り組みがあれば、石見銀山の魅力向上や子供との会話が増える良い機会になると思います。

○山村留学事業

長期山村留学を希望される親子に対して親子留学を実施していますが、不登校児童の受け皿になっている結果にもなっています。参加することで農業に興味がわき、大田市で農業に従事するならばそれもよい機会かもしれませんが、ただ気晴らしで参加するようなことがないように見極めも必要かと思えます。とても難しいことではありますが、申し込み条件を見直し、情報発信の強化を期待します。

○高校魅力化事業 今後校長推薦入試が廃止となり自身が行きたい高校を幅広く選択し、受験できるチャンスが増えるようになります。高校側も特色・差別化を図り、どのようなことに力をいれ、社会が必要としていることは何か、伝統など守るところと変革するところ、様々な取り組みの中から独自性をしっかりと明確にし、市外からの生徒獲得に繋がる発信を望みます。また、学生が通学しやすいように公共交通機関の整備や利便性の向上を望みます。

③ 地域を支え、創る

○担い手の育成 大田市の人口増加のためには、大田市に就職してもらうことが大切です。職場体験学習の実施や、実際に働く人（7 社）の話を聞くことの実施などこれまでの活動を評価します。大田にはこのような企業があり、このような働きがあること。また後継者がいなくてなくなってしまう仕事などもっと情報発信し、働くためにはどのような勉強が必要か？と早く知ることは大切だと思います。職場体験、職場見学など見て体験する機会を増えることを望みます。

【考察】今回このような機会をいただき、心より感謝を申し上げます。改めて、大田市の教育の現状を把握させていただき、多くのことを教わりました。大田市の学校再編という重点項目がありますが、県・全国に先駆けモデルケースになるような再編を期待します。地域との関係など繊細な調整が必要ですが、子供たちの学びと教職員の労働環境改善のため、未来を見据えた事業を期待します。ありがとうございました。

教育委員会の事務に関する点検評価

参 考 資 料

【資料 1】 令和 4 年度 主要施策の成果（省略）

【資料 2】 令和 4 年度 教育委員会審議案件等一覧

【資料 3】 令和 4 年度 教育委員会の所管する審議会等の開催状況

【資料 4】 各取り組みにおける主な報告書等一覧

【資料2】 令和4年度 教育委員会会議審議案件等一覧

(1) 審議案件

番号	件名	提出日
1	大田市教育委員会事務局組織規程の一部改正について	4月28日
2	大田市就学支援委員会委員の委嘱について	4月28日
3	大田市附属機関設置条例の一部改正について	5月26日
4	大田市学力育成協議会設置規則の制定について	5月26日
5	大田市伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則の一部改正について	6月30日
6	川合小学校・池田小学校統合について	6月30日
7	大田市立学校設置に関する条例の一部改正について	7月29日
8	大田市教育委員会処務規程の一部改正について	8月31日
9	川合小学校・池田小学校統合について	8月31日
10	令和3年度 教育委員会の事務に関する点検・評価について	9月26日
11	大田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部改正について	10月27日
12	大田市立小・中学校の教職員の服務規則の一部改正について	10月27日
13	令和3年度教育委員会の事務に関する点検・評価について	11月18日
14	大田市通学バスの設置及び管理に関する条例の一部改正について	11月18日
15	大田市スポーツ振興基金条例の制定について	11月18日
16	大田市体育施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	11月18日
17	財産の取得について	11月18日
18	大田市民会館の指定管理者の指定について	11月18日
19	大田市生涯学習センターの設置及び管理に関する条例施行規則等の一部改正	12月22日
20	大田市教育委員会表彰について	12月22日
21	総合教育会議について	12月22日
22	川合小学校・池田小学校統合について	1月30日
23	大田市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	1月30日
24	令和5年度 学校給食費について	2月22日
25	令和5年度教職員人事異動について【非公開】	2月22日
26	大田市立小・中学校管理規則の一部改正について	3月23日

(2)協議・報告事項

番号	件名	提出日
1	令和4年度4月補正予算について	4月28日
2	大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の変更について	4月28日
3	定めの松保存活用検討委員会の設置について	4月28日
4	令和4年度6月補正予算について	5月26日
5	学校基本調査における児童生徒数について	5月26日
6	公益財団法人 大田市体育・公園・文化事業団の経営状況を説明する書類の提出について	5月26日
7	旧仁万コミュニティセンターの損害賠償額の決定に係る専決処分について	5月26日
8	大田市中学校職場体験推進地域協議会設置要綱の一部改正について	6月30日
9	大田市伝統的建造物群保存地区保存事業費補助金交付要綱の一部改正について	6月30日
10	大田市芸術文化団体等補助金交付要綱の制定について	6月30日
11	石見銀山景観保全審議会委員の変更について	6月30日
12	大田市文化財保存活用地域計画（案）について	6月30日
13	天然記念物琴ヶ浜保存活用計画（案）について	6月30日
14	「富山要害山城跡」の文化財指定について	6月30日
15	6月大田市議会定例会における一般質問について	6月30日
16	2022三瓶高原クロスカントリー大会～オンライン大会～について	7月29日
17	大田市社会教育委員の委嘱について	7月29日
18	第2期大田市スポーツ推進計画（後期計画）について	7月29日
19	令和4年度9月補正予算について	8月31日
20	第84回（2030）国民スポーツ大会の会場地選定等の状況について	8月31日
21	公益財団法人 体育・公園・文化事業団の経営状況を説明する書類の提出について	8月31日
22	9月大田市議会定例会における一般質問について	9月26日
23	令和4年度10月補正予算について	10月27日
24	石見銀山遺跡整備検討委員会設置要綱の一部改正について	10月27日
25	大田市立学校閉校記念事業交付金交付要綱等の一部改正について	12月22日
26	令和4年度12月補正予算について	12月22日
27	12月大田市議会定例会における一般質問について	12月22日
28	令和5年大田市二十歳のつどい	12月22日
29	大田市文化財保存活用地域計画の認定について	12月22日

番号	件名	提出日
30	令和4年度3月補正予算(案)について	2月22日
31	令和5年度当初予算(案)について	2月22日
32	大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会の委員委嘱について	2月22日
33	3月大田市議会定例会における一般質問について	3月23日

【資料3】令和4年度 教育委員会の所管する審議会等の開催状況

1 学校教育課所管

- 1) 大田市いじめ問題対策連絡協議会（委員数：14名）
 - ▽期日 令和4年12月13日（火）
 - ▽議事 市内小・中学校におけるいじめ防止に係る現状と課題について

- 2) 大田市いじめ問題対応専門家会議（委員数：6名）
 - ▽期日 令和5年3月16日（木）
 - ▽議事 いじめ問題への対応について専門家を交えた意見交換

- 3) 大田市特別支援連携協議会（委員数：15名）
 - ▽期日 令和4年12月1日（木）
 - ▽議事 特別支援教育について、関係機関が連携した一貫した支援について

2 社会教育課所管

- 1) 大田市社会教育委員の会（委員数：7名）
 - ▽期日 令和5年3月16日（木）
 - ▽議事 社会教育推進センターの取り組み状況と意見交換

- 2) 大田市スポーツ推進審議会（委員数：10名）
 - 【第1回】 ▽期日 令和5年2月21日（火）
 - ▽報告 令和4年度事業決算（見込）報告について
 - ▽議事 第2期大田市スポーツ推進計画（後期）の評価について

- 3) 大田市立図書館協議会（委員数：7名）
 - 【第1回】 ▽期日 令和5年3月15日（火）
 - ▽報告 令和4年度大田市立図書館運営状況について
 - ▽議事 （1）令和5年度大田市立図書館運営計画（案）について
（2）温泉津図書館について

3 石見銀山課所管

- 1) 大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会（委員数：11名）
 - ▽期日 令和4年5月27日開催
 - ▽議事 会長・副会長の選任、特定物件の特定範囲変更、修理修景事業、報告事項 他

- 2) 石見銀山遺跡整備検討委員会（委員数：11名）
 - 令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催実績なし

- 3) 石見銀山景観保全審議会（委員数：11名）
 - 審議案件が生じなかったことにより開催実績なし

4) 大田市文化財保護審議会 (委員数 : 7名)

【第1回】▽期日 令和5年3月29日(水)

- ▽報告 (1) 令和4年度事業報告
(2) 令和5年度事業計画
(3) 石見銀山遺跡総合調査研究実施状況について
(4) 「鉦夫社宅」の寄附について
(5) 内藤家八番蔵の修理について
(6) その他
・琴ヶ浜保存活用計画について
・定めの松について
- ▽議事 (1) 大田市文化財保存活用地域計画について
(2) 指定文化財の現況について

5) 大田市文化財保存活用地域計画策定委員会 (委員数 : 12名)

令和3年度に計画案完成のため、令和4年度は開催実績なし(委員は継続)

6) 琴ヶ浜保存活用計画策定委員会 (委員数 : 9名)

令和3年度に計画完成のため、令和4年度は開催実績なし

7) 定めの松保存活用検討委員会 (委員数 : 8名)

【第1回】▽期日 令和4年7月22日(金)

▽定めの松現地確認

▽報告 (1) 今年度の樹勢回復事業について

- ▽議事 (1) 定めの松の取扱い
(2) 2世松の育成

【資料4】各取り組みにおける主な報告書等一覧

番号	報告書名	担当課
1	第2期大田市スポーツ推進計画 (後期計画：令和4年度～令和8年度)	社会教育課
2	石見銀山遺跡発掘調査概要30 ー大谷地区ー	石見銀山課
3	大田市文化財保存活用地域計画	石見銀山課